

令和3年度 第2回ケアマネジャー学習会

学習形式：Zoom によるオンライン形式

日時：令和4年3月19日 14:00～16:00

高齢者では服薬管理が上手くいかず、飲み忘れをはじめ誤薬や多剤服用などが大きな課題となっているケースも多いことから、この度「薬剤師による居宅療養管理指導とケアマネジャーとの協働について」をテーマにケアマネジャー学習会を催しました。

当日は県内で活躍されているケアマネジャーのほか、多職種から15名がご参加くださり、(有)サンコーファーマシー 学術・在宅エキスパート松尾 景子先生を講師にお招きしました。

松尾先生は研修・実習認定薬剤師のほか、徳島県地域糖尿病療養指導士として長年、臨床と教育の現場でご活躍されております。

冒頭、歩行困難や認知機能低下などで介助を要する方のほか、薬の使用や管理に不安が生じている方など薬剤師の訪問支援対象者についての説明にはじまり、その実際からはALS患者の在宅療養を支えるチームケアに参画されたケース、認知症と糖尿病を患われている高齢者のインスリン投与支援を担ったケース等が取り上げられました。

ALS患者の支援ではサービス担当者会議で簡易混濁法を提案され、方法を伝達することをケアプランに盛り込むことにより服薬支援の幅が広がったことや、毎日のインスリン注射にストレスを感じていた方にはケアマネに代わって主治医に伺い、代替できる内服薬の処方を実現できたことなど、いずれも利用者の利益に繋がることを教示くださいました。

また、薬剤師が介入したフィジカルアセスメントを多職種で情報共有したケースでは、薬効、副作用をタイムリーに把握することができ市販薬との多剤服用を防ぐことに繋がった一例も紹介されています。総じて薬剤師が関わることにより

- ① 複数の医療機関の処方薬を一元管理できること
- ② 症状に応じた処方の見直しから、ポリファーマシーへの対応
- ③ 副作用への対応

以上の効果があり、医師や看護師とケアマネ間の橋渡しや繋ぐ役割についても教示くださいました。

今後は地域包括ケアシステムの本格的な運用を目前にケアマネジャーと薬剤師が協働する必要性は高まり、連携の深化と進化は不可欠と考えられます。これからも徳島県介護支援専門員協会では現場に直結するテーマで学習会を催し、ケアマネジメントにおける幅広い知識、見識の習得に役立てていける機会を提供して参ります。

松尾先生、貴重なご講演まことにありがとうございました。

施設委員会：伊庭 利光

